

第6回 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会の議事要旨（案）

開催日時：平成20年6月24日(火) 18:00～20:15

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：（委員）梶山 正三[委員長]、小川 由一[副委員長]、関口 鉄夫[作業部会長]、

広瀬 立成、渋谷 謙三、柏谷 羊三、新井 堅司、大垣 雅子、

高木 康夫、フォーク エリック、中川 慶子、小林 美知、木野 直美、

（事務局）鈴木 和夫、加藤 貴一、田後 真人、内山 重雄、河西 秀悟、

加藤 保、黒須 桂子、菊池 賢治、鶴長 文憲、斎藤 泰久、

日高 正人、田中 利和、末廣 多恵子

（傍聴者）1名

（敬称略）

主な議事内容を以下に示す。

（1）第5回検討委員会の議事要旨の確認について

事務局より第5回検討委員会の議事要旨の内容について説明を行い、承認された。

（2）第5、6回作業部会の議事要旨の確認について

事務局より第5、6回作業部会の議事要旨の内容について説明を行い、以下のように議事内容を補足された。

第6回作業部会の議事録のP2、3行目「ガス抜き管を工夫して分散させずに埋め立てる案も検討する」の記述は「当初のガス抜き管を避けて仮置き場を作ろうとする案だと、仮置き場が分散してしまうため、ガス抜き管自体を工夫すれば分散させずにできるのではないか」という意味である。

第6回作業部会の議事録のP2、【梶山委員長説明概要】において、「重金属は・・・提案項目からのぞいた」という記述があるが、これは長崎の事例の定期的なモニタリング項目から重金属を除外するが、モニタリングで異常が認められた際には実施するという提案である。

（3）最終覆土の材料確保のための処分場内での仮置き計画の報告について

仮置き計画の方針、仮置きする土質材料の品質確認方法、仮置きの形状について事務局より以下のように説明を行ない、概ね了承された。

仮置きする土質材料の品質確認方法は以下のとおりとする。

- ・土地利用履歴を把握し、柱状図・地質図等から判断基準を作成して、利用の適否を判断する。
- ・「土壤に係る環境基準（溶出量試験）」「土壤汚染対策法（含有量試験）」に基づき分析を行なう。
- ・土地利用履歴等から土質材料の品質が疑わしいものについては含有量試験（全量分析）でクロスチェックをする。

資料 1-3

第6回 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会作業部会の議事要旨（案）

開催日時：平成20年6月3日(火) 19:00～21:00

開催場所：町田市リサイクル文化センター調理室

参加者：（委員）梶山 正三[委員長]、小川 由一[副委員長]、関口 鉄夫[作業部会長]、
広瀬 立成、渋谷 謙三、木野 直美
(事務局)鈴木 和夫、加藤 貴一、田後 真人、内山 重雄、河西 秀悟、
加藤 保、黒須 桂子、菊池 賢治、鶴長 文憲、斎藤 泰久、
日高 正人、田中 利和

(敬称略)

主な議事内容を以下に示す。

(1) 第5回検討委員会、第5回作業部会の議事要旨の確認について

事務局より説明を行い、了承された。

(2) 最終覆土材の仮置き計画について

事務局より計画(案)の内容について説明を行い、作業部会での検討結果は以下の通りであった。

仮置きする盛土材の確認方法

- 分析項目は、事務局提示の項目（法律で定められた全ての項目）で良い。
- 分析方法は、法律で決められた方法で実施した上で、代表的な数項目については「TCLP等の海外の方法」または「含有量の全量分析」によるクロスチェックを行い分析結果の精度向上に努めること。
- 土地の利用状況を把握することに加えて、使用履歴により土砂の受入を判断することが重要である。また、市内からの発生土に限定することが土地の利用状況を把握する上で有効であると考えられる。
- 土地の利用履歴を把握するため、土地履歴調査結果やボーリング柱状図等も検査書類として添付することを検討する。なお、畑や田の土も、昔は現在では使用しない農薬を使用しており留意する。

仮置き形状

- 仮置きの位置と形状については、事務局提示の考え方で基本的には良い。
- 現状の排水溝は土砂搬入時に補修し、斜面上方からの降雨時の表流水が盛土部に流れ込みを防止することを検討する。
- 盛土の法面と上面は雨水流出係数も高くなるが、大雨時に洗掘の防止についても考慮する必要がある意見があり、法面はブルーシートなどで覆うことで洗掘を防ぐことを説明した。
- 雨水の排水を速やかに行うことが重要であるため、雨水の排水方法やルートについては検討を行う。
- 池の辺の道路沿いの盛土は、地域住民に圧迫感を与える可能性があるとの意見があり、既

- に盛土で樹木も生い茂っていることから、道路側からあまり見えないことを説明した。
- ・盛土の形状が単純な方が圧迫感を与えないほか、降雨時の雨水排水もスムーズにすることができるため、ガス抜き管を工夫して分散させずに埋め立てる案も検討する。
 - ・仮置きの施工と、藍工業との関係はどうかの意見があり、高さ的に問題は無いと思われる旨を説明した。
 - ・仮置きした土を将来使用する際に、搬入土と既埋立層が混ざらないように配慮する必要があるため、将来使用時に配慮した計画とする。

(3) 今年度の調査計画(案)について

事務局より今年度の調査計画(案)について、前回の作業部会からの変更点、現在までの作業の進捗について説明した。今年度調査計画(案)について、以下に主な意見を示す。

周辺民家井戸調査の対照井戸について、場所と井戸の数を再確認する。

地質調査の工程について、できれば関口先生の解説を受けながら、コアを観察したいとの意見があった。

今後のモニタリングを踏まえた分析項目について

委員より提案のあった法定以外の分析項目も含めたモニタリング項目について、梶山委員長より説明を受け、議論した。その結果、本協議テーマは、モニタリングの地点と頻度など学識委員の意見を聞きながら、事務局で案を作成し、将来のモニタリング計画として今年度検討を深めていくこととなった。

【梶山委員長説明概要】

- ・ 重金属は吸着性が高く、費用の割りに、モニタリングの効果が得られ難いことが想定されるため、提案項目から除いた。
- ・ 水質分析について、比較的動き易いモニタリングの指標となる項目として、塩化物イオン、硫酸イオン、カリウムイオンを提案し、有機物が埋め立てられているエリアの富栄養化のモニタリング指標として全窒素を提案した。また、リスク管理的な観点も含め、多くの種類のプラスチックに含まれ溶解性も大きい項目としてビスフェノールA、焼却灰関係のリスクを見るのに適する変異原性試験を提案した。
- ・ ガス分析について、T V O C は室内では暫定目標値がある。リアルタイムにモニタリングできる機器を用い、処分場の表層からのガスの放出の状況を把握する指標となる。(今回の MBNo15, MBNo16 のガス分析は室内分析で実施する)
- ・ 将来のモニタリングにおいては、上記のようなモニタリング項目により監視し、異常なデータが得られた箇所では、詳細な調査分析を行う。
- ・ 測定箇所については、リスク管理の項目は、処理後の排水、D s 1層の地下水、余裕があれば原水を実施することが考えられる。

【質疑・議論】

- ・ 鶴見川の合流点付近で大学の研究で分析が行われている。ただし、詳細な結果は公開されていない。

- ・ T V O C を測定する方法は、可能な限り連続測定としたい。その場合の方法は、雨風が防ぐことのできる建物内に測定機器を設置し、屋外の空気をファン等で建物内に入れる方法などがある。
- ・ リスク管理の問題とモニタリングについて検討する基礎資料とするため、廃棄物中の有害物質の総量を概算で知りたいとの意見があった。

(4) 今後のスケジュール

第6回委員会は2008年6月24日(火)18時から20時に開催する。

以上

また、上記の報告事項についての主な意見を以下に示す。

「5000 m³に1回の分析頻度では少ない」との意見があったが、土壤汚染対策法における汚染の恐れの少ない箇所でのサンプリングの頻度は30m メッシュとなっており、深さ方向の頻度を5m 間隔と考えれば概ね5000 m³となり、妥当な頻度である。

どのような土でも分析して受け入れるということではなく、土地の使用履歴等から汚染の可能性が高い場合には受け入れないということが原則である。

旧埋立区の安定化が必要な範囲があると考えられることから、峠谷埋立区においてはこの範囲を回避して仮置き計画とすることとしたほうがよい。

「仮置き中の土質材料の表面土砂流出防止のためのブルーシートは、仮置き期間が長期にわたる際には、劣化が懸念させる」との意見があり、随時点検、ブルーシートの張替え等、補修を行なうと市が回答した。(仮置き期間としては1年程度を想定している。)

「仮置き工事が始まる前に事前に周辺住民に対して説明を行ってほしい」との要望があり、市は前向きに検討すると回答した。

(後日、7月10日に住民説明会を市が開催することに決定した。)

(4) 本年度調査計画(案)の再確認について

これまでの調査のまとめと今年度の進め方、調査・検討計画について、5/19(月)より開始したボーリング調査の結果の速報もふまえ、事務局より以下のように説明を行い、概ね了承された。また、市より周辺井戸水質データについて、町田市情報公開・個人情報保護運営審議会に諮詢し、承認されたとの報告を行なった。

今年度は、過去の継続調査と将来の対策のための計画を行う。

今年度の調査・検討計画は以下のとおりとする。

- ・新たに3箇所でボーリング調査を行う。
- ・周辺井戸、湧き水の状況調査と水質分析を行う。

旧埋立地の埋め立てガスの分析項目として、総揮発性有機化合物(TVOC)を追加する。

また、上記の報告事項についての主な意見を以下に示す。

旧埋立区で実施したボーリング孔からのメタンガスの発生状況と推移についての質問があり、詳細な結果については次回の検討会で報告する。

周辺井戸・湧水調査については、作業部会で検討した結果、調査地区として6地区、コントロールデータをとるための対照地区として1地区が選定されたが、「対照地区的井戸が汚染されていないという保証がない」という意見があり、分析結果が異常な値を示す際には、対照地区を選定しなおす。

(5) 今後の対策の基本的な考え方について

対策の方針、対策工法の検討、対策の管理・監視方法の検討について事務局より説明を行い、概ね了承された。主な意見を以下に示す。

「雨水調整池の底泥の浚渫とともに、貯留水も抜き、雨水調整池の全体像を明らかにしてほしい」との意見があり、次回以降の検討会で実施方法等を検討する。

最終覆土の断面(概念図)(資料4)で、「雨水が埋立地内部に浸透せず、表面を流出す

るとなっているが、埋立地内部にも浸透するのではないか」との意見があった。これについては、埋立地内部への浸透はゼロではないが、雨水を制御し地下水をコントロールするためにできるだけ表面で排除することを説明し、了承された。

(6) 今後のスケジュール

第7回作業部会；8月12日(火)19:00開催

第6回検討委員会；9月2日(火)19:00開催

最終覆土材仮置きの住民説明会を近々開催する。(後日7月10日と決定)

以上